

## セイコーエプソン株式会社

〒392-8502 長野県諏訪市大和3-3-5  
Tel: 0266-52-3131 (代表)

<http://www.epson.jp>

### 株主メモ

当社は2010年12月3日をもって、株主名簿管理人を三菱UFJ信託銀行株式会社へ変更いたしました。

決算期	3月31日
定時株主総会	6月
期末配当金支払株主確定日	3月31日
中間配当金支払株主確定日	9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
未払配当金の支払い、 支払明細発行のお問い合わせ先・郵便物送付先*	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 0120-232-711 (通話料無料)
特別口座管理機関	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
特別口座に記録された株式に関する各種お手続きのお問い合わせ先・郵便物送付先*	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 0120-288-324 (通話料無料)
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。
公告掲載アドレス	<a href="http://www.aspir.co.jp/koukoku/6724/6724.html">http://www.aspir.co.jp/koukoku/6724/6724.html</a>

\* 住所氏名変更・配当金振込先指定(変更)等の事務手続きについては、お取引の証券会社等にお問い合わせの上、所定の変更届等を提出してください。

\* なお、特別口座にて管理されている単元未満株式(100株未満)の買取りの際には、買取請求書を上記「みずほ信託銀行株式会社 証券代行部」にご請求の上、同行にて所定の手続きを行ってください。

**EPSON**  
EXCEED YOUR VISION

セイコーエプソン株式会社

## 2011年3月期 株主通信

2010年4月1日～2011年3月31日

# 連結財務ハイライト

## 経営理念

お客様を大切に、地球を友に、  
個性を尊重し、総合力を発揮して  
世界の人々に信頼され、社会とともに発展する  
開かれた会社でありたい。  
そして社員が自信を持ち、  
常に創造し挑戦していることを誇りとしたい。

(エプソンは経営理念を世界の14の言語に翻訳し、グループ全体で共有しています。)

### 目次

連結財務ハイライト	1
株主のみなさまへ	2
事業セグメント別の概況	3
特集: エマージング市場への取り組み	5
環境活動: アカウミガメの保護活動	9
会社情報/株主情報	10

本文中、セイコーエプソングループにつきましては「エプソン」、  
セイコーエプソン株式会社につきましては「当社」と記載しています。

## 売上高



## 営業利益 (△損失)



## 経常利益



## 当期純利益 (△損失)



## 総資産



## 純資産/自己資本比率



(注) 1. 金額については、記載単位未満を切り捨てています。  
2. 自己資本は、純資産から少数株主持分を差し引いて算出しています。

## 株主のみなさまへ

このたびの東日本大震災ならびに長野県北部を震源とする地震により被災されたみなさまに、心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈りいたします。

ここに2011年3月期の株主通信をお届けいたしますので、ご高覧賜りますようお願い申し上げます。

当期の経済環境を顧みますと、欧米諸国では高失業率などによる減速要因がありました。景気刺激政策の効果などにより景気は緩やかに回復し、アジアでは新興国が内需を中心に拡大しました。一方、国内においては、前半は景気回復傾向にありましたが、後半は足踏み状態となったことに加え、東日本大震災の影響などから先行きに懸念が残ることとなりました。

このような状況のもと、エプソンは、長期ビジョン「SE15」の目指す姿である「強い事業の集合体」の実現に向け、「確実に利益が確保できる企業体質の定着」を当期の目標として掲げ、各事業の体質強化および構造改革に取り組んでまいりました。

また、エプソンが世界中のお客様にとってなくてはならない存在となることを目指して、先進国に加えてエマージング市場（新興国）においてもお客様価値の創造に向けた取り組みを強化してまいりました（詳細につきましては、本株主通信の特集に取り上げておりますので、そちらをご覧ください）。

以上のような取り組みに加えて、変動費のコストダウンや、固定費の削減・効率的な費用執行などを積極的に進めたことにより、着実に企業体質が強化されるとともに、今後の成長に向けた体制が整ってまいりました。

この結果、当期の業績につきましては、前期に対して円高の影響を受けながらも、売上高9,736億63百万円（前期比1.2%減）、営業利益327億9百万円（前期比79.5%増）、経常利益311億74百万円（前期比124.7%増）、当期純利益102億39百万円（前期は197億91百万円の当期純損失）と着実に改善し、当期の業績目標である「当期純利益の黒字化」を達成することができました。

これにより、当期の期末配当につきましては、期初計画のとおり1株当たり10円をご提案させていただきます。

なお、株主のみなさまへの利益還元につきましては、安定的な配当を基本としたうえで、今後の事業戦略に応じた資金需要および業績や財務状況などを勘案し、中長期的に連結配当性向30%を継続的に実現することを目標としてまいります。

今後、エプソンは、強みが活かせる分野や成長領域への経営資源の集中を一層進め、次代を担う新規事業の育成に取り組めます。同時に、現在の中期経営計画の最終年度となる2012年3月期においては、長期ビジョン「SE15」実現に向けた「新たな成長軌道の確立」に邁進してまいります。

株主のみなさまにおかれましては、引き続き長期的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。

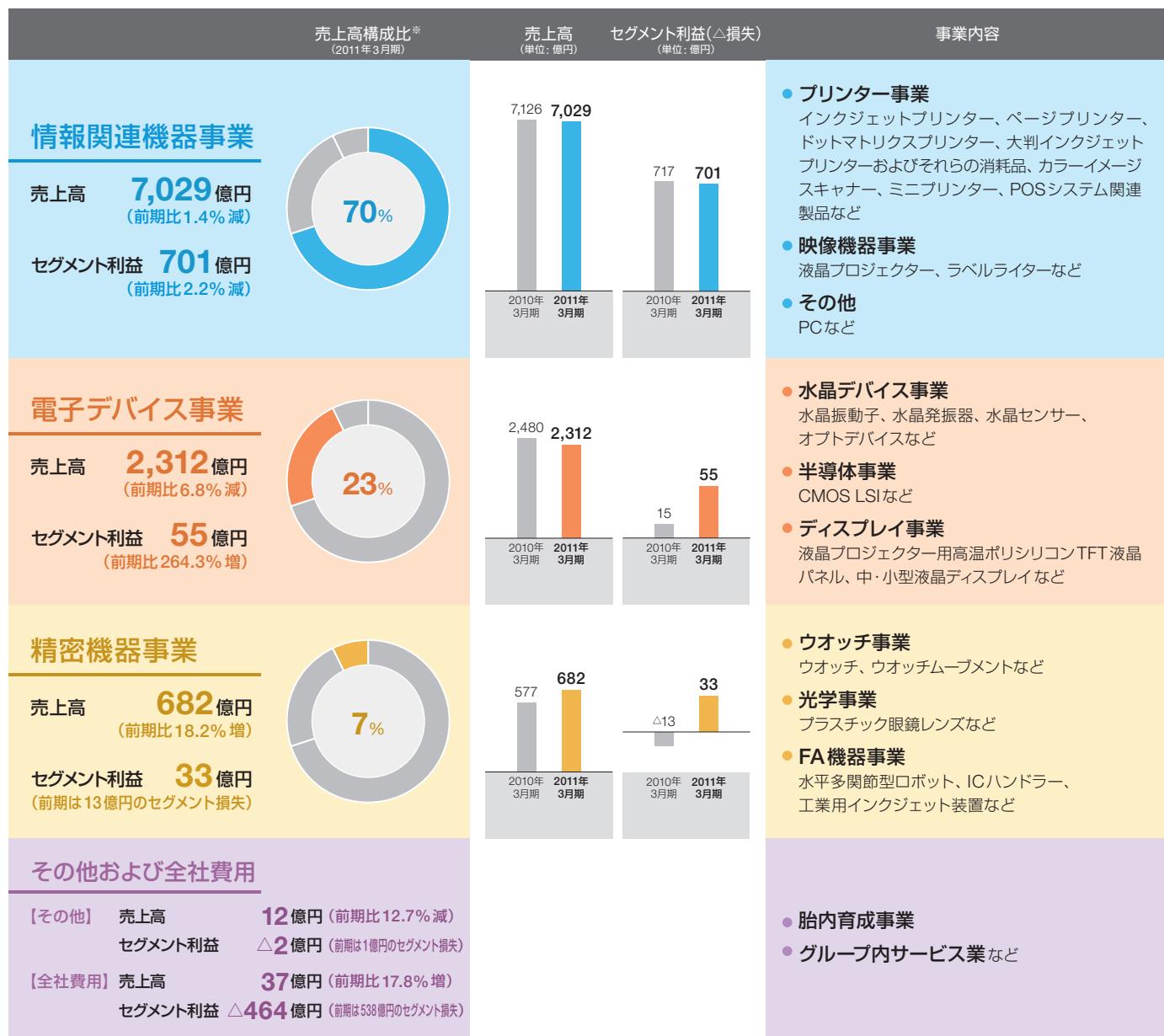
2011年5月



代表取締役社長 **西川 稔**

# 事業セグメント別の概況

(注) 1. 2011年3月期の業績の詳細については、同封の「第69回定時株主総会招集ご通知」内、事業報告をご確認ください。  
2. 当連結会計年度よりセグメント情報に関する新しい会計基準を適用し、前連結会計年度の金額は、当連結会計年度のセグメント情報の測定方法で再計算しています。



\* 売上高構成比は、内部売上高を含めて算出しています。

## 2011年3月期の主な新商品、開発状況



カラリオプリンター  
「EP-803A」



産業用インクジェット  
デジタルラベル印刷機  
「SurePress L-4033A」



オフィリオプロジェクター  
「EB-1775W」



オフィリオプロジェクター  
「EB-465T」

- プリンター事業では、「暮らしの中で、なくてはならない存在」となることをめざしたカラリオプリンターの新商品群を発売。また、商業・産業分野向けとして、ラベル印刷における市場ニーズを満たした産業用インクジェットデジタルラベル印刷機の新商品を発売。
- 映像機器事業では、当社製液晶パネルを使用した「3LCD」方式によるビジネス・教育・ホーム向け各種プロジェクターを発売。スリムサイズながら、短焦点レンズにより短い距離でも大画面投写が可能なモバイルプロジェクターや、電子黒板機能を搭載した学校向けオフィリオプロジェクターの新商品を発売。



高精度・高分解能の絶対圧センサー  
「XP-6000CA」



E Ink社製カラー電子ペーパー用  
表示コントローラー「S1D13524」

- 水晶デバイス事業では、高さ換算で3cm相当の気圧変化を検出可能な、高精度・高分解能と小型サイズを両立した絶対圧センサーを開発。
- 半導体事業では、E Ink社製電子ペーパーディスプレイのカラー化に初めて対応した専用コントローラー ICを共同開発。



垂直多関節型6軸ロボット  
「S5シリーズ」

- FA機器事業では、「スマートモーションコントロール技術\*」搭載の、垂直多関節型6軸ロボットの新しいシリーズを販売。  
※高速かつ低振動を両立させ、ロボット動作(直線・円弧動作や重量物を持った時など)を最適化するための、新加減速チューニングなどのエプソン独自のロボット軌跡制御技術。



エプソン イノベーションセンター

- 胎内育成事業では、新規事業化をめざしたさまざまな事業の育成および研究開発を実施。
- グループ内サービス業では、エプソン向け各種サービス業を子会社において展開。

特集：エマージング市場への取り組み

# 世界のどこでも、なくてはならない存在へ

世界経済の牽引役として注目を浴びる新興国。これらは、エマージング市場ともよばれ、高い経済成長が見込まれ、世界経済に与える影響力も大きくなっています。

エプソンの海外進出の歴史は古く、1960年代に初めての製造拠点、1970年代に初めての販売会社を設立してから数十年という月日をかけて、世界中のお客様と接しながら商品をお届けしてきました。

そして今、これまでも取り組んできたエマージング市場で新たなチャンスが広がっています。今回はエプソンのエマージング市場への取り組みについてご紹介します。

## エプソンの社員が見たエマージング市場

エプソンは、時代によって、地域によってさまざまに異なるお客様のニーズを的確に把握し、誰よりも早く柔軟に対応するために、グローバルな視点で、国内外に開発・生産・販売・サービスの拠点を整備しています。

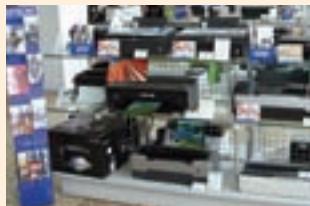
ここでは、現地で活動しているエプソンの社員が見たエマージング市場の様子をお伝えします。

### ロシア

#### 印刷需要がこれからも増加する市場

ロシアの経済状況は、2008年後半の世界的金融危機の影響を受けましたが、2010年以降着実に回復してきています。

それを裏付けるように、PC関連の量販店にお客様が戻ってきています。ロシアの人々は写真に強い興味を抱いており、ほとんどのお店で売り場の一等地にデジ



量販店の売り場の様子

### トルコ共和国

人口：7,142万人 (18位)  
国民一人当たりGDP：10,206ドル (57位)  
経済成長率：7.8% (21位)

### インド共和国

人口：12億1,593万人 (2位)  
国民一人当たりGDP：1,176ドル (135位)  
経済成長率：9.66% (6位)

### ベトナム社会主義共和国

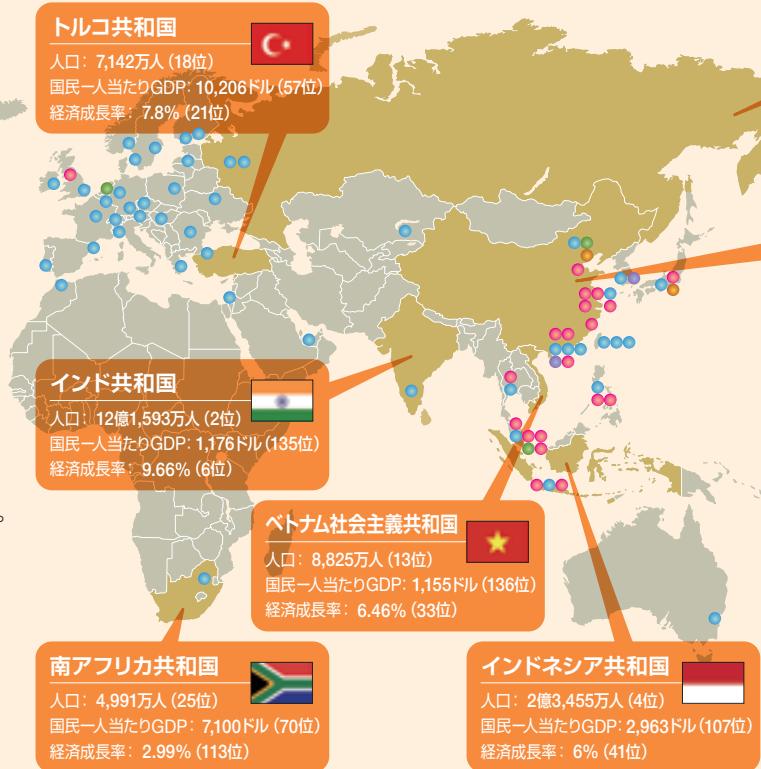
人口：8,825万人 (13位)  
国民一人当たりGDP：1,155ドル (136位)  
経済成長率：6.46% (33位)

### 南アフリカ共和国

人口：4,991万人 (25位)  
国民一人当たりGDP：7,100ドル (70位)  
経済成長率：2.99% (113位)

### インドネシア共和国

人口：2億3,455万人 (4位)  
国民一人当たりGDP：2,963ドル (107位)  
経済成長率：6% (41位)



タルカメラとインクジェットプリンターが置かれています。写真でも文書でも印刷コストを気にされるお客様は多いので、ランニングコストを抑えられるインクジェットプリンターの需要は、今後も伸びていくと考えています。

## 中南米

### 発電機でプロジェクター？ 驚きの教育現場

メキシコやチリ、アルゼンチンなどの中南米各国では、次世代を担う若年層の教育に力を入れており、政府主導で学校へのIT機材の導入を推進しています。これらの学校では、

先生は衛星通信によりインターネット配信される教材をPCにダウンロードし、プロジェクターを使って授業をおこなうシステムも導入されています。こうした国々では、都市部は高層ビルが立ち並び近代的ですが、そこから車で1時間も走れば砂と岩の荒涼とした景色が広がります。そうした場所には電気も通っていない学校もあり、自家発電機によってプロジェクターとPCを動かしています。また、海拔2,500m以上の場所もあり、さまざまな環境下でも使えるプロジェクターが必要とされています。



質素な教室で真剣に授業に取り組むメキシコの生徒たちの様子

## 中国

### 人手が足りない！ 近代化が進む中国

中国は交通網の整備が進み、建設ラッシュ、近代化が進んでいます。都市部の生活は日本とあまり変わらない印象です。そんな中国で最近問題となっているのが「人手不足」です。目覚ましい経済発展により、工場の増設、内陸部の雇用増加、賃金高騰、若者の工場勤務離れなどの要因が重なり、特に沿岸部で人手不足が顕著になってきました。工場での人手が足りない… いずれ自動化の波が来る。エプソンは、中国の現地法人と協力してこれに向けた準備を始め、2009年9月にFAロボットの販売・サポート窓口を立ち上げました。今ではロボットビジネスを支える重要拠点として成長を続けています。



展示会でのデモンストレーションの様子



出典：International Monetary Fund, World Economic Outlook Database, October 2010

## 特集：エマージング市場への取り組み

# 現地の声から生まれた商品

エプソンは、エマージング市場のお客様に受け入れられる商品の開発に取り組んできましたが、その成果の一例として、昨年の10月にインドネシアで販売を開始したインクジェットプリンター「L100/L200」という商品があります。インドネシアのお客様を知り、現地販売会社と日本の開発陣が一体となって創り出した「L100/L200」をご紹介します。

### プリンターにタンク？

インドネシアの人口は2億3,000万人を超え世界第4位。新興国の中でも高い経済成長が期待されている国のひとつです。インドネシアでは、外部のタンクやボトルから直接プリンターのヘッドにインクを供給できるように改造されたインクジェットプリンターが出回っていました。あるとき、日本の担当者に、現地販売会社のメンバーから、エプソンでもそういった商品が作れないかとの要望が届きました。エプソンのインクジェットプリンターは、インクカートリッジ方式を採用していましたので、担当者はその要望に戸惑いながらも、早速、現地調査に出向くことにしました。

### インドネシアでの印刷事情

インドネシアでのインクジェットプリンターは、個人の家庭でも使われるようになってきていますが、その大半はビジネスで使われています。ビジネス用途ではテキスト印刷が中心で、写真画質を重視するよりも、大量印刷する際の利便性が重視されています。実際に改造されたインクジェットプリンターを活用されているお客様にお話を伺ってみると、インクの値段もさることながら、カートリッジの頻繁な交換が面倒だということなのです。連続して大量印刷するには、プリンターを改造するしかなく、改造したプリンターには当然純正のインクカートリッジは使えませんので、印刷不良やインクの漏れ、ヘッドの故障などのトラブルに困っているというお客様の姿があったのです。

### お客様の声に向き合った結果

これまでは、インドネシアのお客様にもインクカートリッジ方式の良さを理解していただくという努力をしてきました。しかし、現地でお客様の声をお聞きし、現地のお客様にとっての価値が見えてくると、従来の対応だけでは、お客様の要望に応えられていなかったということも判ってきたのです。

関係者が集まり、お客様の価値を実現するにはどうしたらいいのか何度も検討した結果、大容量のインクを使っての大量印刷が必要とされているのであれば、エプソンにとって前例のないことであっても、そういう商品を創り出そうという結論に至りました。

こうして開発された商品は、本体側面にインクタンクを装備し、インクもボトルで提供することとしました。これにより、インクを交換することなく大量印刷が可能となり、安心できる品質と安価な生涯コストを実現する商品をお届けできるようになりました。



## エマージング市場への取り組みを通じて目指す姿

これまで紹介したように、エプソンのエマージング市場への取り組みは今に始まったことではありません。そして、これからその取り組みはますます広がりを見せていこうとしています。ここでは改めて、エマージング市場への取り組みを強化していく背景や、これによりエプソンが目指す姿などについてご紹介いたします。

### 今、なぜエマージング市場に向かうのか

エマージング市場に向かう理由はシンプルです。これまでの主たるお客様は先進国の人々でしたが、ここ数年でエマージング市場が成長を遂げ、経済発展や生活水準の向上とともに私たちの商品を必要とくださるようになってきました。目の前に膨大な数の新しいお客様が現れ、そのお客様に求められているからこそ、エプソンはそこに向かうのです。

同時に、エマージング地域のお客様に最適な商品をお届けできるようになるということは、長期ビジョン「SE15」の目指す姿である、「強い事業の集合体」の実現に向けて踏み出すということにもつながります。強い事業を実現するためには、先進国で強だけでなく、エマージング市場でも強くなることが必要になります。エマージング市場に向かうということは、将来の先進国となりうる市場でプレゼンスを確立することにもつながるのです。

### 世界中のお客様にとって、なくてはならない存在に

エマージング市場に向けての取り組みは、優先順位をつけて進めていくことが前提ですが、対象地域については、エマージング市場＝先進国を除いたすべての国・地域、と広くとらえています。現在でも、

中国とインドはドットマトリクスプリンターにおいては大きな比率を占める地域になっていきますし、その他の商品でもブラジルをはじめとした中南米地域の売上高は北米地域に迫ろうとしています。また、エプソン最大の生産拠点があるインドネシアは、人口が多く、市場も広がっています。このように、エマージングの国々がエプソンに及ぼす影響は大きくなっていきます。

今後は、これまでの取り組みを一段と加速し、どの国のお客様にもエプソンの製品やサービス、装置・電子部品をお届けできるようにし、「〇〇ならエプソンだね」と言ってもらえるような、世界中のお客様にとってなくてはならない存在として認めていただけるような会社を目指してまいります。

### ドットマトリクスプリンター

ビジネスにおける複写帳票印刷や連続帳票印刷業務に欠かせないプリンター。消耗品を含めたトータルコストを抑えることができ、耐久性も高いためエマージング市場では特に支持されています。エプソンは、エマージング市場をはじめ世界市場で50%以上のシェア(エプソン調べ)があります。



## 環境活動 — アカウミガメの保護活動 Sensing Nature

エプソンは「鴨川シーワールド」と協力し、センシング技術や無線通信技術を活用して絶滅危惧種に指定されているアカウミガメの保護活動に取り組んでいます。

ここでは、エプソンの技術を活用した、生物多様性の保全に貢献する新しい取り組みをご紹介します。

### 鴨川シーワールドとエプソンの取り組み

千葉県にある鴨川シーワールドは、行政と連携しながら「ウミガメ類と海岸の自然を守る啓発活動の一環」として、絶滅の危機にひんしているアカウミガメの保護活動を展開しています。北太平洋域に生息するアカウミガメの産卵場は日本の砂浜に限られており、そのほぼ北限が千葉県鴨川市周辺の房総半島となります。ここで産み落とされた卵のうち、台風や大雨などで流出の可能性が高い卵や、ふ化に適さない場所で産卵された卵を鴨川シーワールド内の人工浜「海亀の浜」に移設し、生態調査・研究を実施しながら、より自然生態に近い状態でのふ化と子ガメ放流の試みを行なっています。

エプソンは、生物多様性保全への貢献とセンシング技術応用のための検証を目的として、2010年6月より、「海亀の浜」と鴨川シーワールドの前に広がる東条海岸の砂中の温度計測と、アカウミガメのふ化検出を行っています。



センサーを設置している様子

#### アカウミガメ



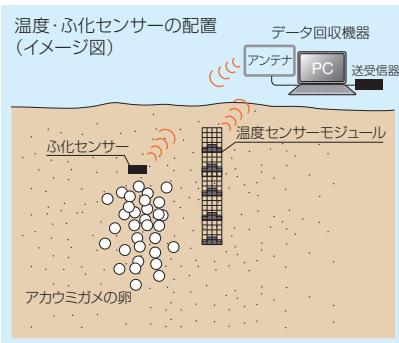
体色は背面が褐色、腹面は淡黄色で、頭部がほかのウミガメに比較すると大きく、英名の「loggerhead」は、「頭でっかち」を意味する。世界の大洋に広く分布するウミガメで、アメリカ東海岸、ブラジル、南アフリカ、ギリシャ、オマーン、日本、オーストラリア東岸などに主な産卵場がある。近年では開発による産卵場の破壊や乱獲の影響により、2006年に環境省の新レッドリストで「絶滅危惧IB (EN)」に指定された。またIUCN (国際自然保護連合) のレッドリストにおいても同様の指定がされている。

### 無線通信技術とセンサーモジュール

この活動を始めるにあたり、エプソンは無線通信技術を使用したセンサーモジュールを新たに開発しました。

「海亀の浜」には、エプソンが提供した砂中の温度計測を行なう温度センサーモジュールと、卵がふ化したことを検出できるふ化検出モジュールが埋設されています。

砂中温度は30分ごとに自動計測され、ふ化は子ガメが卵の上に置かれた小型センサーに触れることで検出されます。温度データとふ化検出データはそれぞれのモジュール内のメモリーに蓄積されます。蓄積されたデータは、鴨川シーワールドの飼育員が砂の中に埋設しているモジュールから無線通信でデータ回収機器に読み出します。この無線通信技術の特長は、通常の無線技術では困難である土・水・砂の中からのデータ通信ができることです。砂を掘りかえずことなく、



地表面から卵の埋まっている砂中の成育環境の温度測定、子ガメのふ化日時の把握ができるようになりました。

昨年の猛暑においてもエプソンが開発したセンシングシステムは無事に役割を果たし、合計314匹の子ガメが太平洋へ旅立っていきました。

# 会社情報 / 株式情報 (2011年3月31日現在)

- **本社** 〒392-8502  
長野県諏訪市大和三丁目3番5号  
TEL: 0266-52-3131(代表)
- **本店** 〒163-0811  
東京都新宿区西新宿二丁目4番1号新宿NSビル  
TEL: 03-3348-8531(代表)
- **資本金** 532億4百万円
- **創立** 1942年5月18日
- **従業員数** 連結: 74,551人 単体: 13,311人
- **グループ会社** 100社(当社を含む)

## 国内関係会社

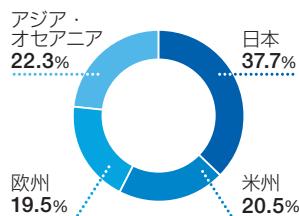
エプソン販売株式会社 東北エプソン株式会社  
エプソンダイレクト株式会社 秋田エプソン株式会社  
エプソントヨコム株式会社  
他 19社

## 海外関係会社

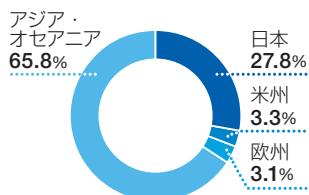
U.S.Epson, Inc. (地域統括)  
Epson Europe B.V. (地域統括)  
Epson (China) Co., Ltd. (地域統括)  
Epson Singapore Pte. Ltd. (地域販売統括)  
Epson America, Inc. (販売)  
Epson France S.A. (販売)  
Epson Precision (Hong Kong) Ltd. (製造)  
P.T. Indonesia Epson Industry (製造)  
Suzhou Epson Co., Ltd. (製造)  
Singapore Epson Industrial Pte. Ltd. (製造)  
他 65社

## ● 仕向地域別売上高の割合

(2010年4月~2011年3月)



## ● 所在地別従業員数の割合



## ● 役員 (2011年4月1日現在)

取締役ならびに監査役		業務執行役員	
取締役会長	花岡 清二	業務執行役員常務	小松 宏 John Lang 上柳 雅誉
取締役副会長	服部 靖夫		
取締役社長 (代表取締役)	碓井 稔	業務執行役員	酒井 明彦 伊藤 一紀 森 昭雄 小池 清文 宮川 隆平 遠藤 鋼一 田場 博己 久保田 孝一 奥村 資紀
取締役副社長 (代表取締役)	両角 正幸		
専務取締役 (代表取締役)	久保田 健二		
常務取締役	矢島 虎雄 平野 精一 羽片 忠明		
取締役	濱 典幸 福島 米春		
常勤監査役	内田 健治 小口 徹		
監査役	山本 恵朗 石川 達紘 宮原 賢次		

## ● 株式の状況

発行可能株式総数	607,458,368 株
発行済株式総数	199,817,389 株
株主の総数	37,544 人

## ● 大株主の状況

株主名	所有株式数(千株)	所有比率(%)
青山企業株式会社	20,718	10.36
三光起業株式会社	14,288	7.15
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	10,537	5.27
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	9,165	4.58
セイコーホールディングス株式会社	7,948	3.97
服部 靖夫	7,159	3.58
セイコーエプソン従業員持株会	6,023	3.01

(注) 1. 所有株式数は、千株未満を切り捨てています。  
2. 所有比率は、小数点以下第3位を切り捨てています。